

## 挑戦的実践と研究の推進

朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科 庄司直人

前号ではスポーツにおけるテクノロジーの活用をテーマに、「人間拡張技術が拓くスポーツトレーニングDX<sup>1)</sup>」をはじめ、多くのスポーツ競技におけるテクノロジーの活用方法や今後の展望を記述した多くの原稿を掲載した。そして、今号では、そのテクノロジーを活用した研究成果を著した書籍の紹介が資料紹介として掲載された。この資料紹介からこの一年の大きな変化を感じ取ることができる。

前号が発行された一年前は、コーチングの現場でテクノロジーがどう使われているか、そして、今後数年の展望が紹介されているが、いずれも技術ありきであり、先端技術をスポーツないしコーチングに導入するというフェーズであった。しかし、本号で紹介された『球速の正体』では、単なるテクノロジーの活用事例の紹介ではない。例えば、Rapsodo (ラプソード) という野球のフィールドにおいては既に市民権を得て広く使用されている機器が広く普及しつつあるからこそ生まれた、データを扱うコーチや選手という「人」に目を向ける重要性と必要性にも言及され、テクノロジーの導入から、真のテクノロジーの活用へと新たなフェーズに突入していることを伝えてくれる資料である。

『球速の正体』では、テクノロジーをコーチングの現場で活用した事例の報告のみならず、テクノロジー活用の意欲を喚起することを意図した有名プロ選手の分類、計測データを活かすために必要な知識の紹介、テクノロジー活用を実践する最前線の人々の取り組み、その実践から生まれる金言も紹介されている。いずれも最新の情報と、自ら足を使い収集した生のデータの分析から生み出された知見であるが、データを収集し分析し実践に活かす面白さを伝えようとする著者の熱意と、新たなコーチングの視点を開拓しようとする挑戦の産物ではないかと思える。著者が愚直にデータを取り続け、足繁く国内外の最先端の取り組みを自らの目で確かめ話を聞き続けてきたからこそ、コーチングの現場で有益な情報に富む書籍になったことであろう。そして、重要なことはただ最先端のテクノロジーを活用しパフォーマンスの向上を目指したというわけではなく、そのテクノロジーを活用することで新しいコーチングの方法や在り方、選手自身のトレーニングの方法や考え方を提示し、選手やコーチを新境地に導くという壮大な挑戦がその背景にあると思われることであろう。

また、本号では初めて「アイデア」の論文が掲載された。筆者がその著者でもあり手前味噌ではあるが、国内においては実践の場では重要とされるものの、なかなか研究が進まないというジレンマを抱えるインテグリティの研究を推進する呼水とすべく、インテグリティの定義とその評価方法に関するアイデアを提示した。総説論文として執筆することも考えられるものの、科学的根拠を示すことが困難な有用と考えられるアイデアをいかに公表するかという点ではある種の挑戦であった。どのような分野であれ独創的なアイデアが大きな可能性を切り拓いていくこともあり、健康、スポーツの場でも同様である。これを契機に挑戦的なアイデアの提案が本誌にて行われることを期待したい。

- 1) 持丸正明 (2023) 人間拡張技術が拓くスポーツトレーニングDX. 朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科紀要, (6), 3-10.